

# 米国農務省穀物等需給報告(2023年2月8日発表のポイント)

令和5年2月9日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、2月8日(現地時間)、2022/23年度の10回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2022/23年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 27億 2,954万トン(対前年度比 2.4%減) ↓
- ② 消費量: 27億 6,320万トン(対前年度比 1.5%減) ↑
- ③ 期末在庫量: 7億 6,000万トン(対前年度比 4.2%減) ↓  
期末在庫率: 27.5%(対前年度差 0.8ポイント減) ↓

### 【主な品目別の動向】

**小麦** : 世界の生産量は、ウェスタンオーストラリア州で増産となった豪州で3年連続過去最高を更新し、ロシアで春小麦の収穫面積が引き上げられたことから上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、食用等需要量がバングラデシュで引き下げられたものの、飼料用その他需要がカナダ、EU等で引き上げられたことから、前月から上方修正も、前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの輸出量が前月から上方修正された。

- 1 生産量: 7億 8,380万トン(対前年度比 0.6%増) ↑ ・ロシア、カナダ、ブラジル、カザフ等で増加、ウクライナ、アルゼンチン、インド、EU等で減少
- 2 消費量: 7億 9,116万トン(対前年度比 0.2%減) ↑ ・ロシア等で増加、インド、中国等で減少
- 3 期末在庫量: 2億 6,934万トン(対前年度比 2.7%減) ↑ ・ロシア、中国等で増加、インド、米国、EU等で減少  
期末在庫率: 34.0%(対前年度差 0.9ポイント減) ↑

**とうもろこし** : 世界の生産量は、フィリピン、ベトナムで引き上げられたものの、アルゼンチンで単収、収穫面積が引き下げられたこと等から、前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、前年度より減少する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの輸出量は上方修正された。

- 1 生産量: 11億 5,136万トン(対前年度比 5.3%減) ↓ ・ブラジル、中国等で増加、米国、EU、ウクライナ、アルゼンチン等で減少(前月に比べアルゼンチンで下方修正)
- 2 消費量: 11億 6,237万トン(対前年度比 3.3%減) ↓ ・中国、ブラジル等で増加、米国、ウクライナ、EU、カナダ、アルゼンチン等で減少(前月に比べEUで上方修正、ブラジル、アルゼンチンで下方修正)
- 3 期末在庫量: 2億 9,528万トン(対前年度比 3.6%減) ↓ ・ブラジル等で増加、米国、EU等で減少  
期末在庫率: 25.4%(対前年度差 0.1ポイント減) ↓

**コメ(精米)** : 世界の生産量は、ベトナム等で引き下げられたものの、タイ等で引き上げられたことから、前月からわずかに上方修正されたものの前年度を下回る見通し。世界の消費量は中国等で上方修正されたものの前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。インドは、輸出税賦課にもかかわらず輸出ペースが堅調なため、輸出量が上方修正された。

- 1 生産量: 5億 298万トン(対前年度比 2.3%減) ↑ ・インド、中国、パキスタン等で減少
- 2 消費量: 5億 1,719万トン(対前年度比 0.5%減) ↑ ・インド等で減少
- 3 期末在庫量: 1億 6,913万トン(対前年度比 7.8%減) ↓ ・中国、インド等で減少  
期末在庫率: 32.7%(対前年度差 2.6ポイント減) ↓

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、アルゼンチンで収穫面積の引き下げと乾燥により単収が低下したことから前月から下方修正されたものの、ブラジルで史上最高となる見通しなどから前年度を上回り、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国等で引き下げられるも、前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 3億 8,301万トン(対前年度比 7.0%増) ↓ ・ブラジル、パラグアイ、中国等で増加、米国、アルゼンチン等で減少(前月に比べアルゼンチンで下方修正)
- 2 消費量: 3億 7,641万トン(対前年度比 3.9%増) ↓ ・中国、ブラジル等で増加
- 3 期末在庫量: 1億 203万トン(対前年度比 3.2%増) ↓ ・ブラジル等で増加  
期末在庫率: 27.1%(対前年度差 0.2ポイント減) ↓

# 世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年2月8日発表)

## 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	
<b>全体</b>						
生産量		2,725.36	2,796.48	2,729.54 ▲ 2.4%	▲ 1.1	2,295.7
消費量		2,741.97	2,804.28	2,763.20 ▲ 1.5%	0.2	2,284.4
期末在庫量		801.44	793.65	760.00 ▲ 4.2%	▲ 0.7	480.9
期末在庫率		29.2%	28.3%	27.5% ▲ 0.8	▲ 0.0	21.1%
<b>小麦</b>						
生産量		774.55	779.33	783.80 0.6%	2.5	660.5
消費量		782.71	792.69	791.16 ▲ 0.2%	1.4	680.0
期末在庫量		290.06	276.70	269.34 ▲ 2.7%	1.0	181.1
期末在庫率		37.1%	34.9%	34.0% ▲ 0.9	0.1	26.6%
<b>粗粒穀物</b>						
生産量		1,441.49	1,502.36	1,442.77 ▲ 4.0%	▲ 3.6	1,159.1
消費量		1,455.83	1,491.69	1,454.85 ▲ 2.5%	▲ 2.3	1,139.5
期末在庫量		322.94	333.61	321.53 ▲ 3.6%	▲ 0.8	175.7
期末在庫率		22.2%	22.4%	22.1% ▲ 0.3	▲ 0.0	15.4%
<b>とうもろこし</b>						
生産量		1,129.50	1,216.00	1,151.36 ▲ 5.3%	▲ 4.6	898.8
消費量		1,144.08	1,202.55	1,162.37 ▲ 3.3%	▲ 3.1	877.4
期末在庫量		292.84	306.28	295.28 ▲ 3.6%	▲ 1.1	144.8
期末在庫率		25.6%	25.5%	25.4% ▲ 0.1	▲ 0.0	16.5%
<b>コメ(精米)</b>						
生産量		509.33	514.80	502.98 ▲ 2.3%	0.0	476.1
消費量		503.44	519.89	517.19 ▲ 0.5%	1.1	464.9
期末在庫量		188.44	183.34	169.13 ▲ 7.8%	▲ 0.9	124.1
期末在庫率		37.4%	35.3%	32.7% ▲ 2.6	▲ 0.2	26.7%

## 【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 前月差	
生産量		368.52	358.00	383.01 7.0%	▲ 5.0	269.1
消費量		363.87	362.11	376.41 3.9%	▲ 3.1	265.1
期末在庫量		99.75	98.83	102.03 3.2%	▲ 1.5	58.7
期末在庫率		27.4%	27.3%	27.1% ▲ 0.2	▲ 0.2	22.1%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 8, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとおり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

# 米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年2月8日発表)

## 【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		429.86	448.60	408.46	▲ 8.9%	-	353.0
消費量		351.24	360.68	348.85	▲ 3.3%	▲ 0.4	317.1
輸出量		107.23	94.85	74.39	▲ 21.6%	▲ 0.4	51.6
期末在庫量		58.40	57.85	51.18	▲ 11.5%	0.7	44.2
期末在庫率		12.7%	12.7%	12.1%	▲ 0.6	0.2	12.0%
<b>小麦</b>							
生産量		49.75	44.80	44.90	0.2%	-	61.3
消費量		30.41	29.61	30.62	3.4%	▲ 0.0	37.8
輸出量		27.05	21.78	21.09	▲ 3.2%	-	27.5
期末在庫量		23.00	19.01	15.47	▲ 18.6%	0.0	19.5
期末在庫率		40.0%	37.0%	29.9%	▲ 7.1	0.1	29.9%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		372.89	397.71	358.47	▲ 9.9%	-	285.3
消費量		315.97	326.28	313.56	▲ 3.9%	▲ 0.4	275.5
輸出量		77.21	70.46	51.33	▲ 27.2%	▲ 0.3	20.7
期末在庫量		34.01	37.58	34.66	▲ 7.8%	0.7	23.5
期末在庫率		8.6%	9.5%	9.5%	0.0	0.2	7.9%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		358.45	382.89	348.75	▲ 8.9%	-	273.2
消費量		306.69	317.12	303.93	▲ 4.2%	▲ 0.6	263.0
輸出量		69.78	62.78	48.90	▲ 22.1%	-	18.5
期末在庫量		31.36	34.98	32.17	▲ 8.0%	0.6	20.9
期末在庫率		8.3%	9.2%	9.1%	▲ 0.1	0.2	7.4%
<b>コメ(精米)</b>							
生産量		7.22	6.08	5.09	▲ 16.3%	-	6.3
消費量		4.86	4.80	4.67	▲ 2.7%	-	3.8
輸出量		2.97	2.61	1.97	▲ 24.5%	▲ 0.1	3.4
期末在庫量		1.39	1.26	1.05	▲ 16.7%	0.0	1.2
期末在庫率		17.8%	17.0%	15.8%	▲ 1.2	0.8	16.1%

## 【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		114.75	121.53	116.38	▲ 4.2%	-	82.8
消費量		60.91	62.77	63.97	1.9%	▲ 0.4	48.6
輸出量		61.67	58.72	54.16	▲ 7.8%	-	36.1
期末在庫量		6.99	7.47	6.13	▲ 17.9%	0.4	3.8
期末在庫率		5.7%	6.1%	5.2%	▲ 1.0	0.4	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 8, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

## 世界の穀物等の価格動向 (2023年)

● 小麦 : 7.57 ドル/bu (前年同時期の価格 : 7.63 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における2023年2月第1週末のセツルメント価格。史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日)】

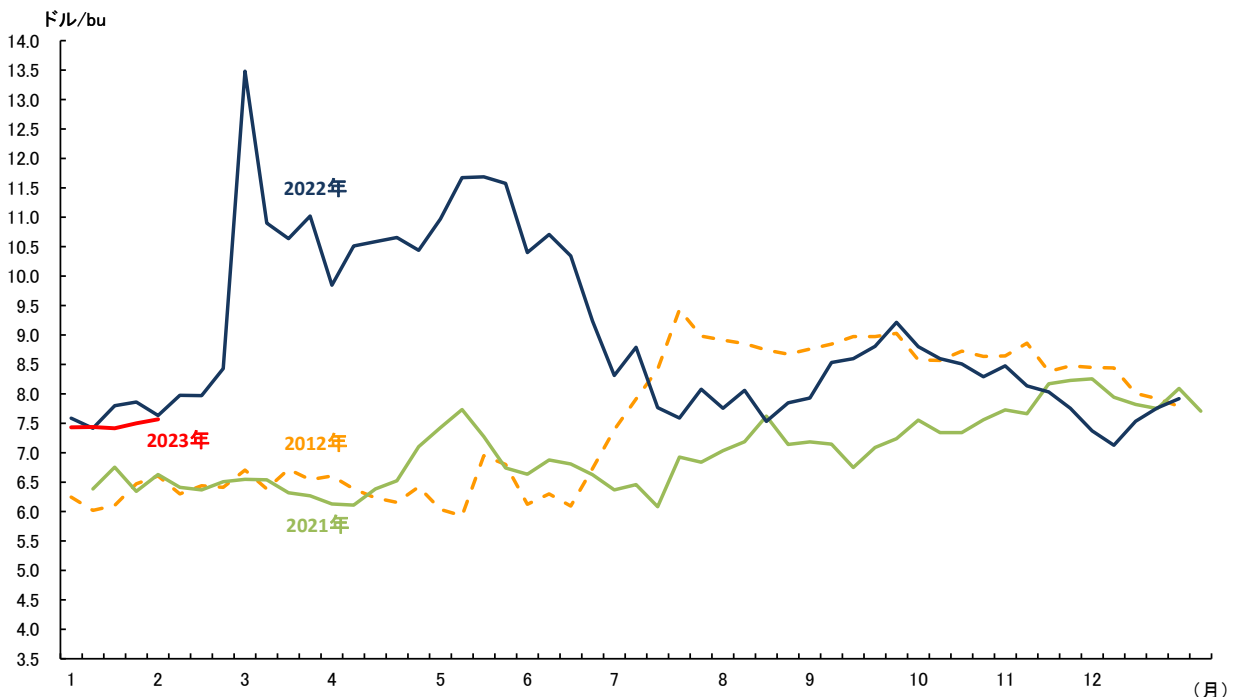
1月に入り、ロシア、ウクライナ等からの供給増加等から7ドル/bu台前半に値を下げたものの、冬小麦生産地の米国大平原で乾燥による作柄悪化懸念から7ドル/bu台半ばに値を上げた。その後、同地で降雨があり7ドル/bu台前半に値を下げたものの、次いで寒波に見舞われ作柄悪化が懸念されたことから値を上げ、1月下旬現在、7ドル/bu台半ばで推移。

### 【2022年の価格の動き】

2月中旬以降、ロシアのウクライナ侵攻による供給懸念等から上昇し、3月7日には史上最高の14.25ドル/buに値を上げたものの、4月初旬に9ドル/bu台後半に値を下げた。

5月中旬には、ロシアのウクライナ侵攻の深刻化による小麦供給懸念や、米国プレーンズの乾燥による米国産冬小麦への影響懸念、インドの輸出停止、ウクライナ産の輸出停滞から再び上昇し、12ドル/bu台後半に値を上げたものの、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画、ウクライナの黒海経由での輸出再開、ウクライナ産の輸出進展から、8月中旬に7ドル/bu台前半まで値を下げた。

8月下旬以降は、ウクライナ産の黒海経由輸出に関するロシア側からの合意条件見直しの示唆や、ウクライナからの輸出の再懸念等から上昇したものの、11月17日のウクライナからの穀物輸出再開に関する4者合意の120日間延長(2023年3月19日まで)の決定や、ロシアからの潤沢な小麦供給、豪州の史上最高の生産量予測等から7ドル/bu前後に値を下げた。その後、12月下旬には、米国冬小麦生産地帯での寒波の影響等から7ドル/bu台後半に値を上げた。



注:シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

● とうもろこし：6.78ドル/bu（前年同時期の価格：6.21ドル/bu）

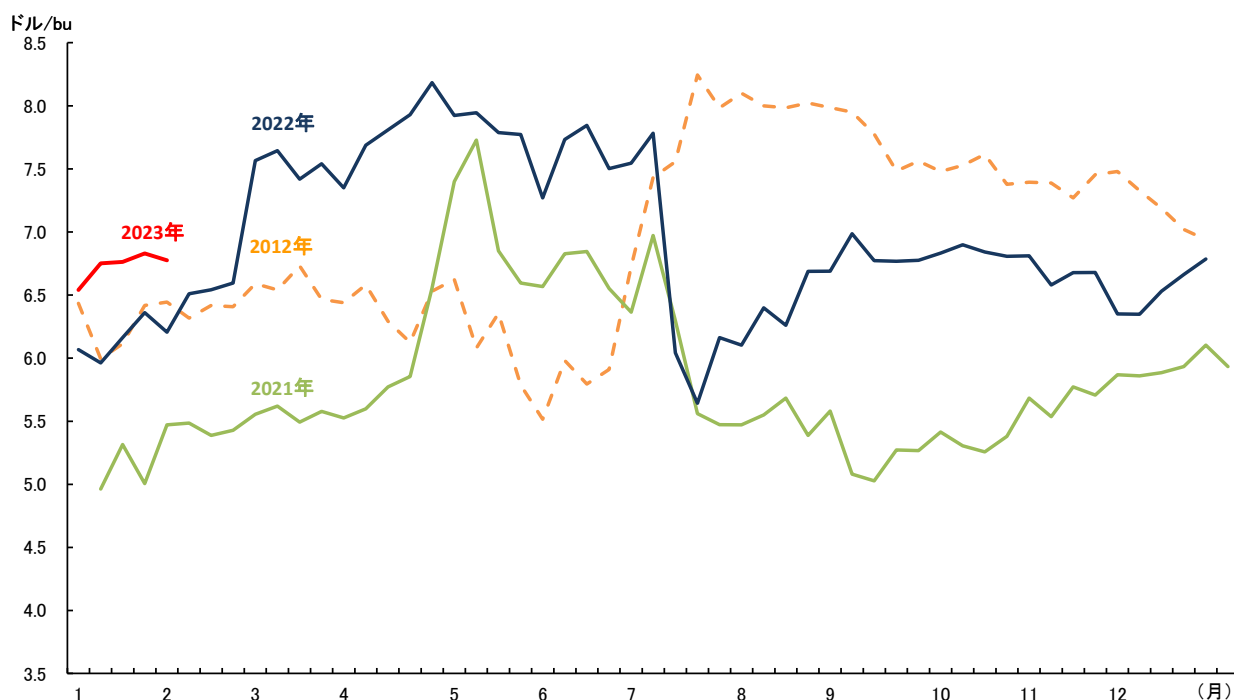
【価格は、シカゴ商品取引所における2023年2月第1週末のセツルメント価格。史上最高値：8.31ドル/bu(2012年8月21日)】

1月に入り、原油相場の下落や世界的な景気減速等から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、干ばつによるアルゼンチンの減産懸念等から6ドル/bu台後半に値を上げた。その後、アルゼンチンの降雨等から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、米国産の輸出需要増やアルゼンチンの乾燥天候予測等から値を上げ、1月下旬現在、6ドル/bu台後半で推移。

### 【2022年の価格の動き】

2月以降、ロシアのウクライナ侵攻やラニーニャ現象に伴う南米の高温・乾燥による減産懸念、米国中西部の低温や雨がちな天候等から、4月下旬に8ドル/bu台前半に値を上げたものの、米国中西部の遅れていた作付けの加速や、国連のウクライナ産穀物輸出再開に向けた支援計画、ウクライナ産穀物輸出再開に向けた4者合意への期待感等から5ドル/bu台半ばに大幅に値を下げた。

7月下旬以降、EU及び米国中西部での高温・乾燥による作柄悪化懸念等から7ドル/bu台前半に値を上げたものの、ミシシッピ川の水位低下による米国産の輸出競争力低下や、世界的な景気減速懸念、11月17日のウクライナからの穀物輸出再開に関する4者合意の120日間延長(2023年3月19日まで)の決定、米国の輸出需要低迷の懸念等から、12月上旬に6ドル/bu台前半に値を下げた。その後、アルゼンチンの乾燥懸念等から6ドル/bu台後半に値を上げた。



注：シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移



● コメ：526 ドル/トン（前年同時期の価格：449 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2023 年 2 月第 1 水曜日の FOB 価格。史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)】

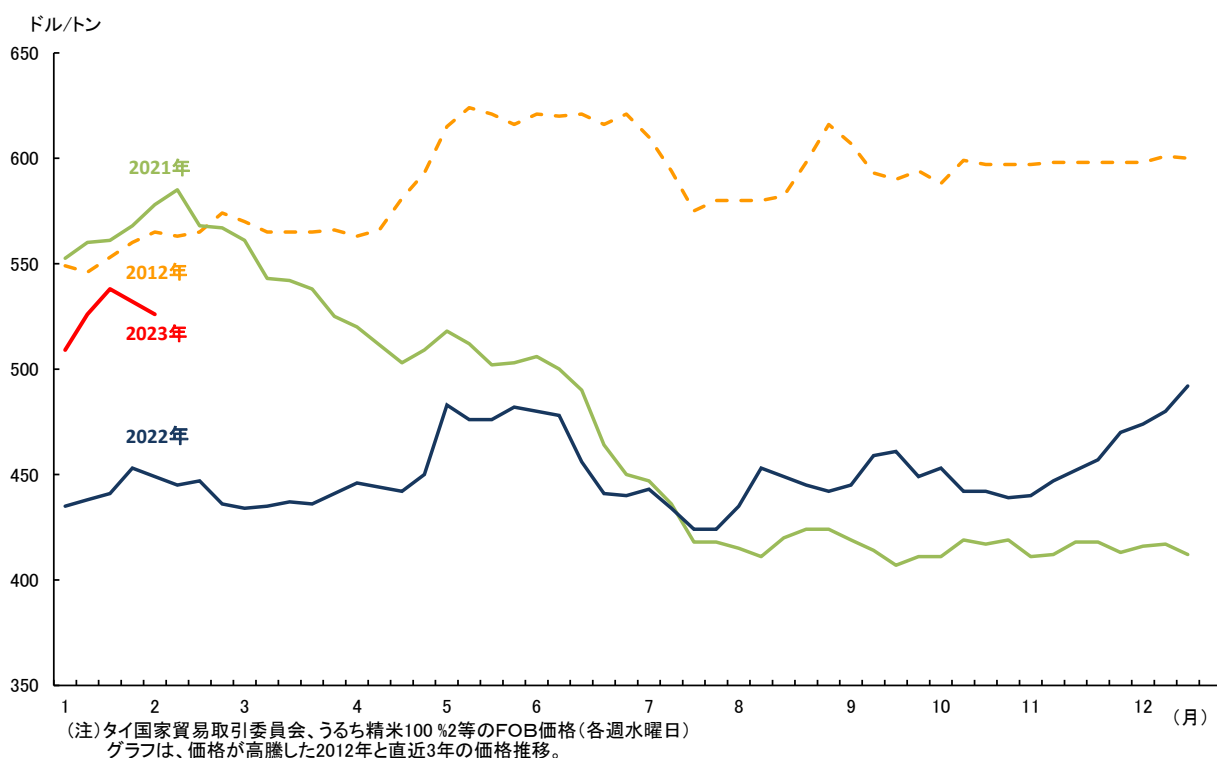
1 月に入り、更なるパーツ高や、インドネシアによる政府備蓄不足回復のためのタイ産の輸入増、中東諸国からの需要増により値を上げ、1 月中旬現在 530 ドル/トン台後半で推移。

### 【2022 年の価格の動き】

3 月から 5 月にかけて、イラク等からの強い需要により、480 ドル/トン台前半にまで値を上げたものの、イラクやアフリカ諸国からの需要が低下したことや、パーツ安、乾季作の新穀が市場に流通し国内価格が低下したこと等から、7 月に 420 ドル/トン台半ばに値を下げた。

8 月以降、中東等からの新規需要や、パキスタンの洪水による被害、インドの輸出規制（碎米輸出禁止と一部精米の 20% 輸出税賦課）から 460 ドル/トン台前半に値を上げたものの、軟調な国際需要、パーツ安や新穀の供給開始から 440 ドル/トンに値を下げた。

11 月以降、急速なパーツ高や、ベトナム産に比べタイ産の価格競争力があること、インドネシアによる政府備蓄不足回復のためのタイ産の輸入等、アセアン諸国からの堅調な需要等により 490 ドル/トン台前半に値を上げた。



● 大豆：15.32ドル/bu（前年同時期の価格：15.54ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2023年2月第1週末のセトルメント価格。史上最高値：17.71ドル/bu(2012年9月4日)】

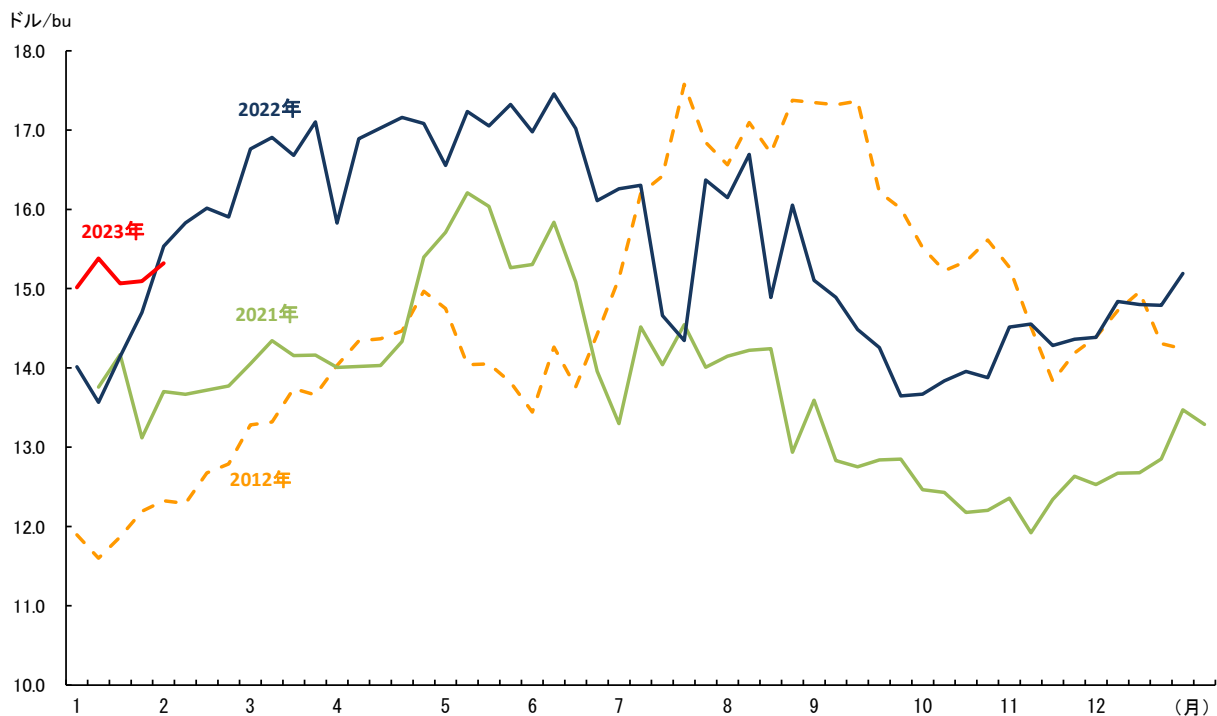
1月に入り、原油相場下落や世界的な景気減速等から14ドル/bu台半ばに値を下げたものの、干ばつによるアルゼンチンの減産懸念等から15ドル/bu半ばに値を上げた。その後、アルゼンチンの降雨予報、ブラジルの豊作予想等から14ドル/bu台後半に値を下げたものの、米国産の輸出需要増や、ブラジルの収穫遅延、アルゼンチンの乾燥天候予測等から値を上げ、1月下旬現在、15ドル/bu台前半で推移。

【2022年の価格の動き】

1月中旬以降、乾燥による南米の減産見通し、ウクライナ情勢、植物油価格全体の上昇、中国のロックダウンの解除、大豆の堅調な国内需要や原油相場の上昇等から6月上旬に17.69ドル/buと2012年9月の史上最高値に迫る水準に値を上げたものの、中国需要の伸び悩み懸念や欧米の経済減速懸念、米国中西部の一部での降雨予報から、7月下旬には14ドル/bu台前半まで大幅に値を下げた。

8月上旬に、米国中西部の高温・乾燥懸念等から、17ドル/bu前後に値を上げたものの、世界的な景気後退懸念や米国の収穫の進展等から、10月上旬に13ドル/bu台半ばに値を下げた。

10月中旬以降、USDAの10月需給報告で米国の生産量が市場予想に反して下方修正されたことや、米国の低水準な期末在庫量、アルゼンチンでの干ばつの影響懸念、その影響による大豆粕価格の上昇、中国のゼロコロナ政策の緩和の動きに伴う大豆輸入の拡大の見方等から15ドル/bu台前半に値を上げた。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セトルメント）である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

### 1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
108.99	106.78	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93	130.20						

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

### 2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
45.01	48.22	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51	45.62						

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC  
Grain Market Indicators」  
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

### 3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
57.03	39.40	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.44	78.12						

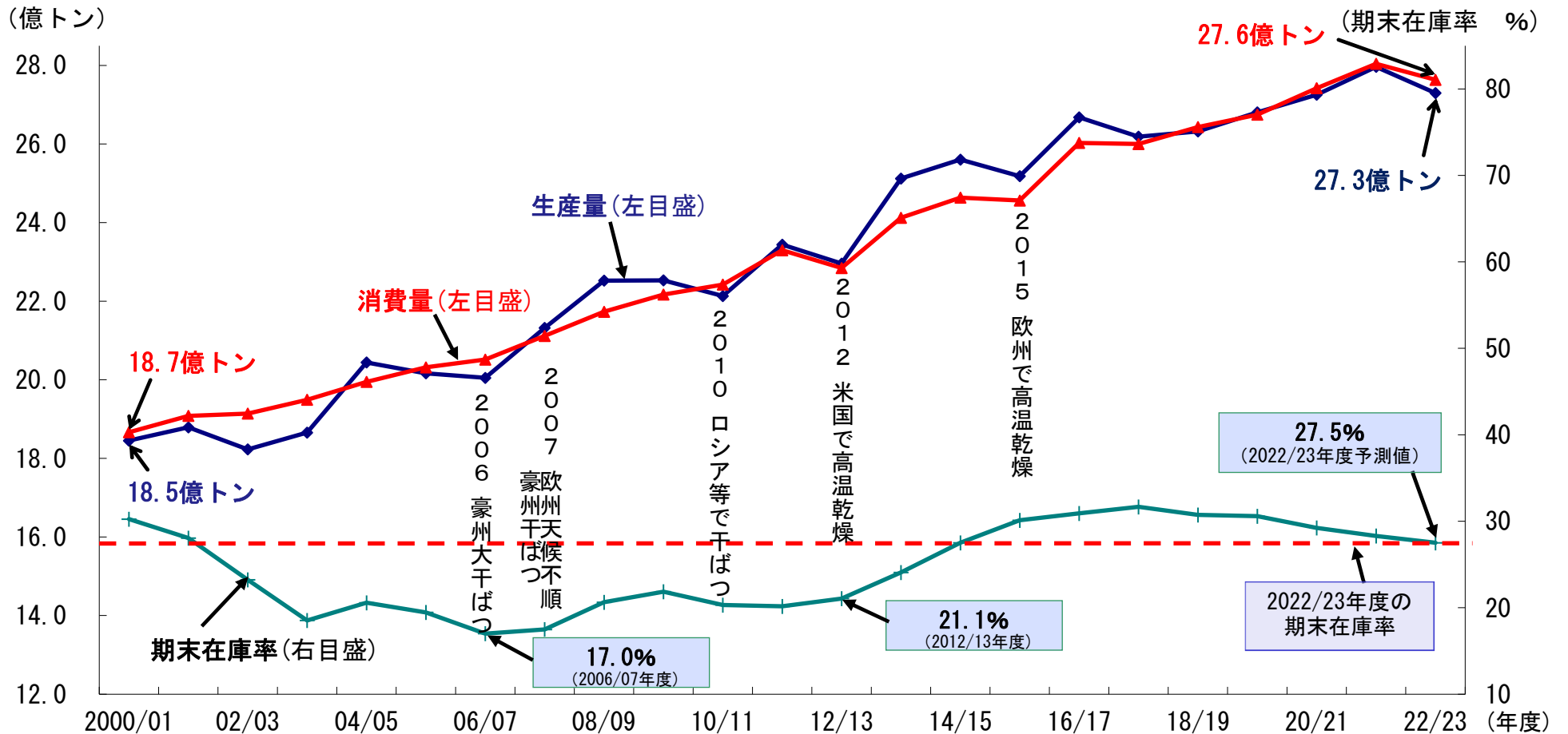
出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和4年1月, 124頁  
但し、2023年1月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum  
Status Report」の日次データの平均値



## 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2022/23年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2022/23年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、27.5%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (February 2023)、「PS&D」  
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。